

航空機操縦士養成連絡協議会
航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

裾野拡大ワーキンググループ
平成27年度とりまとめ

1. 平成27年度におけるワーキンググループ開催実績

第5回 平成28年 3月 1日(火)

- (議事) (1)共通ウェブサイト「skyworks」の管理・運営等について
(2)平成28年度における裾野拡大の取組みについて
(3)平成27年度とりまとめ(案)について
(4)その他

2. ワーキンググループ構成員

別紙のとおり

3. 平成27年度における取組み

平成26年度とりまとめにおいて、「平成27年度中を目途に実施する。」とされた事項について、次のとおり取組みを行った。

3. 1 個別の取組のネットワーク化等による航空業界全体の取組の推進

(1)航空に係る共通ウェブサイトの創設

平成26年度において、「航空関連の職業やそれらに必要な資格や養成機関等に関する情報等を掲載した共通ウェブサイトを制作し、関係団体、企業、養成機関等とリンクを貼り、航空の裾野を拡大するための様々な取組等に関する効率的・効果的な情報発信を行う。共通ウェブサイトの作成・管理は、関係企業、養成機関、関係団体、関係省庁等の協力(人的・財政的支援を含む)の下、(公社)日本航空機操縦士協会が行うこととする。」とのとりまとめがなされた。

これを受け、航空機操縦士養成連絡協議会及び航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会（以下「両協議会」という。）双方の協力の下、公益社団法人日本航空機操縦士協会（以下「J A P A」という。）を中心に、公益社団法人日本航空技術協会（以下「J A E A」という。）及び一般社団法人日本航空宇宙工業会（以下「S J A C」という。）の3者が深く連携し、平成27年12月22日に共通ウェブサイト「s k y w o r k s」を開設した。

s k y w o r k sは、パイロット、航空整備士及び航空機製造技術者のコンテンツからなり、各職業に就くための道のり、各職業に就いた後のキャリアパスのほか、関連イベントの掲載や動画の配信、さらにはキッズページを設置している。

また、通信技術の発達により、現在の若者はスマートフォンやタブレット端末からウェブサイトを開覧する傾向が強いとみられることから、s k y w o r k sもこれらの端末からの閲覧を意識した作りとなっている。

(2) 航空関連職業についてのガイドブック・パンフレット等の作成

平成26年度において、「航空関連の職業としてどのようなものがあるのか、どのようにすればその職業に就くことができるのか等の情報は、ガイドブック・パンフレット等の紙媒体でも作成しておくことにより、各種イベントや初等中等教育機関の関係者に配布する等の用途に用いることができる。」とのとりまとめがなされた。

これを受け、両協議会協力の下、「航空関連職種の紹介」を作成し、文部科学省の協力の下、同省が開催するキャリア教育・進路指導担当指導主事連絡協議会の場を通じ、高等学校の進路指導担当者等へ同資料を配布した。

また、同資料は、両協議会員においても適宜活用できるよう、両協議会員への配布も行った。

なお、前述のs k y w o r k s内において掲載されている各職業に就くための道のり等の内容は、本資料からも多数引用され、とりまとめられたものである。

(3) ソーシャルメディア等を活用した情報発信力の向上

平成26年度において、「航空の裾野拡大を図るためのインターネットの活用方策として、共通ウェブサイトに加え、Y o u T u b e等のメディアを活用し、情報発信の強化を図ることを検討する。」とのとりまとめがなされた。

これを踏まえ、前述のs k y w o r k sにおいて配信されている動画の中には、Y o u T u b eを活用した動画も含まれており、また、s k y w o r k sの管理者であるJ A P Aにおいても、Y o u T u b eにs k y w o r k sのチャンネルを設け、動画コンテンツの充実を図っている。

3. 2 空に親しむ体験を充実させる取組の強化

(1) MR J 関連の取組の実施（主として若年層、幅広い層にも実施）

平成26年度とりまとめにおいて、「工場の見学ツアー、MR J 開発状況の発信、小売業における航空関連体験の商品／特典化」が提案され、この内、MR J 開発状況の発信に関して、三菱航空機株式会社が平成27年11月のMR J 初飛行の様様をウエ

ブ上でL I V E配信したほか、初飛行イベントとしてメディアを招待し、それにより報道番組においても生中継され、国民の航空への関心を集める機会となった。また、三菱航空機株式会社がMR Jの機体の組立てに関する動画をY o u T u b eで公開していることから、前述のs k y w o r k sにおいても、三菱航空機株式会社の許可を得た上で、これを利用し、当該動画にリンクすることにより、広く情報発信を行っている。

こうした取組みは、国民の航空への関心をより一層高める機会となり得ることから、継続した実施が期待される。

(2)「空の日」との連携

平成26年度とりまとめにおいて、「空の日ネットとs k y w o r k sの相互リンク、空の日実行委員会が製作するポスター／グッズを各イベント等で配布、空の日イベント参加者で航空関連職種に興味を持った若年層が養成課程等の情報をその場で得られるように養成機関の出版・リーフレットや航空機操縦士、整備士、製造技術者養成に関連する親しみやすいステッカー等の配布等」が提案され、この内、空の日実行委員会が製作するポスターについて、空の日実行委員会の協力を得て、両協議会員に配布され、幅広く広報活動を行った。

なお、空の日ネットとs k y w o r k sの相互リンクについては、今後、空の日実行委員会とs k y w o r k s管理者であるJ A P Aにおいて協議し、実現が期待される。

(3)空のお祭りやスカイスports等の振興

平成26年度とりまとめにおいても紹介した公益財団法人日本学生航空連盟による「埼玉スカイスportsフェスタ」(主催：スカイスportsフェスタ実行委員会)について、今年度においても平成27年10月25日に「埼玉スカイスportsフェスタ2015」が開催され、当日は、生憎の強風により体験搭乗やデモフライト等一部のイベントは中止となったが、約12,000人の参加者があり、その中にはお子様連れの家族の姿が多く、子どもたちには様々な体験を通じ、空に興味を持ってもらうことができたとの報告を受けた。

当ワーキンググループとしては、このような取組みは大いに歓迎するものであり、さらなる裾野拡大を目指し、航空業界全体として様々な取組みを促進する。また、埼玉スカイスportsフェスタの事例で見られたように、地方自治体が積極的な役割を果たすことが期待される。

3. 3 女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者の増加に向けた取組

(1)現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会の開催

平成26年度において、「女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者の増加を図るためには、女子学生・生徒等が、現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者から直接経験談を聞く機会を設けることが有効であると考えられる。平成27年度以降、女性操縦士のみならず、女性整備士及び女性製造技術者も含めた講演会等を、航空会

社や製造事業者等の協力の下で関係団体が開催する。」とのとりまとめがなされた。なお、平成26年度においては、先行的な取組みとして、JAP A主催により女子学生等に対し女性操縦士による講演等が行われたところである。

これを受け、今年度において、平成28年2月21日に両協議会が連携し、一般社団法人日本女性航空協会協力の下、「航空教室（女性限定）特別版 Yes I can!」を開催し、約100人の女性参加者に対し、現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演、さらには、パネルディスカッション、グループディスカッションが行われた。こうした取組みは、今後も継続して行われることが期待される。

3. 4 初等中等教育における航空への関心を高める取組

(1) 高校の進路指導担当者等への情報提供

平成26年度とりまとめにおいて、「若年層が航空関連職種への関心を持ったとしても、それらの職種やその養成機関に関する情報は殆ど教育の現場で共有されておらず、進路指導担当者等が適切な指導を行うことができないのが実情である。」と考えられたことから、前述3. 1 (2)のとおり、文部科学省の協力を得て、高等学校の進路指導担当者等へ航空関連職種の紹介を行った。

また、一例として、愛知県、愛知労働局、松阪地域雇用対策協議会や中部経済産業局がそれぞれ連携し、愛知県内や松阪地区の高校の進路指導担当教諭を対象に航空機産業事業所の見学会を開催した。

こうした取組みは、継続して実施することが有益であると考えられる一方で、その実現には文部科学省、厚生労働省、経済産業省、自治体の協力が必要不可欠であり、可能な限り関係機関の協力が得られるよう、今後も連携を図っていきたい。

(2) 「キャリア教育」の取組との連携

平成26年度とりまとめにおいて、「文部科学省の協力を得つつ、小・中・高等学校へのキャリア教育を支援するため、出前講座の実施促進、航空の現場を体験する教育機会の提供拡大を推進する。」とされた。

これらの取組みに関し、一例として、厚生労働省の職業意識形成支援事業である「キャリア探索プログラム」に関して、愛知労働局では航空機産業分野の社会人講師が未登録であったことから、愛知県、愛知労働局及び中部経済産業局が連携し、航空機関連部品企業等を中心に新たに14名（内、女性5名）の講師を登録し、県内高校・中学校への派遣が開始された。平成27年度は、のべ8校1190名の中高生に対し、9回の講話を実施した。

この取組みは、愛知労働局での取組みであり、他の労働局における取組内容は、直接各労働局に照会することとなるが、当ワーキンググループとしては、こうした取組みも裾野拡大に資するものと捉え、各者各地域において、積極的に情報を収集し、こうした取組みに参加されることが期待される。

3. 5 その他

(1) 子ども霞が関見学デーへの協力

平成26年度とりまとめには記述がないが、平成27年7月29日及び30日の二日間に渡り開催された国土交通省における「子ども霞が関見学デー」において、JAPPAやJAEAをはじめ航空会社が協力し、フライトシミュレーター体験や現役操縦士・整備士・客室乗務員による仕事紹介など、裾野拡大に資する取組みを行った。

(2) ヘリコプター部会との連携

ヘリコプター部会の下に設置された裾野拡大WGより、今後、裾野拡大の取組を行うにあたり連携していきたいため、合同でWGを開催したいという提案があり、了承された。また、skyworksについて、ヘリコプターパイロット等の内容を追加したい旨の提案があり、了承された。

4. 今後の取組み

(1) skyworksの管理・運営

平成27年12月22日に開設されたskyworksについて、今後、より多くの方々に本ウェブサイトを開覧してもらえるよう、skyworksの認知度の向上を図る必要があるが、skyworksの管理者及び運営者の自助力のみでは限りがある。このため、両協議会員においても、本ウェブサイトの認知度向上への助力が求められる。なお、skyworksの認知度向上に伴い、当該ウェブサイトへの掲載要望が寄せられることも考えられるため、情報の信頼性の確認等を行うなど掲載に至る判断等をskyworksの管理者及び運営者において行うことが必要である。

また、skyworksにはイベントカレンダーを実装しており、幅広く多種多様な情報を発信することが不特定多数の閲覧者にとっては有益であると考えられる一方で、頻繁な更新は、管理者の負担増や閲覧者が求める情報が入手しにくくなるおそれにも繋がるため、イベントカレンダーに掲載する情報や方法、更新頻度等についても一定の整理が必要であると考えられる。

(2) 平成28年度における取組み

平成28年度においては、3. に掲げた取組み（「共通ウェブサイトの創設」及び「航空関連職業についてのガイドブック・パンフレット等の作成」を除く）に関し、可能な限り継続して実施されることが望ましい。このほか、両協議会事務局から裾野拡大に関する取組みについて協力依頼があった場合は、関係者の積極的な協力が期待される。一方で、協議会員各位においても、裾野拡大に関する取組みを検討する上で、個社での実施が難しい場合は他の会員に協力を要請したり、協議会事務局へ相談したりするなど、相互に協力して取組むことも想定される。なお、裾野拡大に関する取組みを進めるにあたっては、「空の文化の涵養」という視点にも留意していく。

5. 平成28年度以降の進め方

(1) 裾野拡大ワーキンググループについて

裾野拡大ワーキンググループは、平成28年度以降も存続する。ただし、ワーキンググループは、前述「4. 今後の取組み」に関するフォローアップを含め、事務局が開催する必要があると判断した場合に開催するものとする。

なお、これまでのワーキンググループは両協議会合同で開催してきたが、今後は、各協議会の取組みの内容により、協議会ごとに開催する場合も想定される。

<<添付資料>>

- ・ 裾野拡大ワーキンググループ平成27年度とりまとめ参考資料
- ・ 裾野拡大ワーキンググループ構成員名簿